

打倒!! コロナフレイル

～あいさつ＋ONEの声かけで入居者の社会的フレイルを解消～

居室サービス課 坂江歩・田中由加里・倉西美里
生活サービス課 長谷川英子





有料老人ホーム

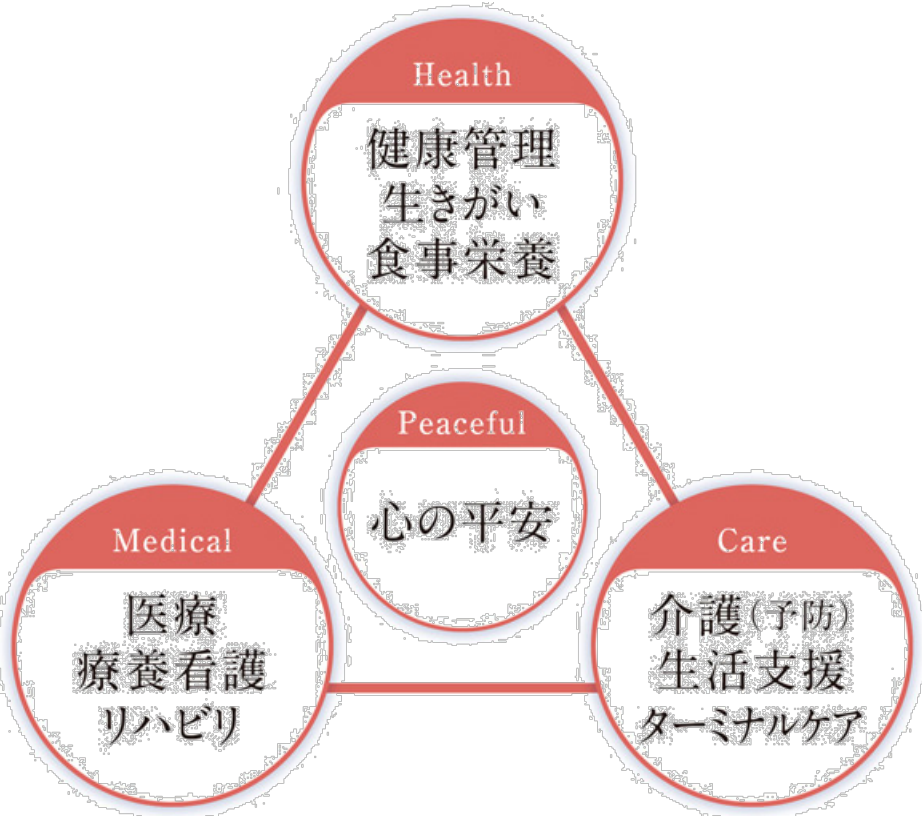
エデンの園

エデンの園が構築するトータルヘルスケア

その3つの柱となっているのが

Health（健康管理）Medical（医療支援）
Care（介護）です

ご自宅と変わらない生活を送っていただく
「自立」期から、必要な生活支援を利用し
ながら過ごしていただく「合間」の時期、
日常的に介護サービスが必要な「要支援・
要介護」期を経て、「終末」期まで
Peaceful（心の平安）をご提供します



健康増進

早期
発見

治療

リハビリ

看護
介護

ターミナル



社会福祉法人 聖隷福祉事業団 高齢者公益事業部



全国に展開する「エデンの園」

神奈川県三浦市
三浦半島の南端に位置する



※東京都住宅供給公社より運営受託
明日見らいふ南大沢

・横浜エデンの園

※日本生命×聖隷福祉事業団
松戸ニッセイエデンの園

・藤沢エデンの園 一番館

・宝塚エデンの園

・藤沢エデンの園 二番館

・松山エデンの園

・浦安エデンの園

※日本生命×聖隷福祉事業団
奈良ニッセイエデンの園

・浜名湖エデンの園

・油壺エデンの園



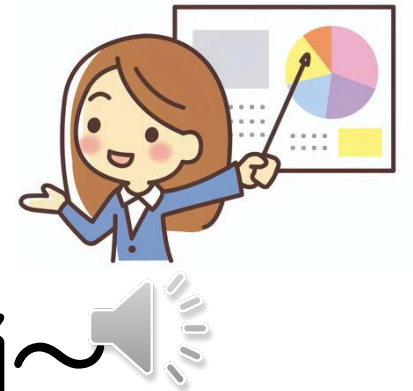
はじめに

油壺エデンの園では、入居者の介護に関する分析・研究学会等での報告を継続している。

2021年度：過去20年間における油壺エデンの園入居者の
要介護認定発生率・健康寿命の算出と考察

2022年度：喫食率と基本チェックリストの相関分析

2023年度：打倒!! コロナフレイル
～あいさつ+ONEの声かけで
入居者の社会的フレイルを解消～



新型コロナウイルスによるフレイルへの影響 (コロナフレイル)

フレイルチェック活動導入自治体からの新知見①

【コロナ渦での外出自粛生活の長期化】

孤立～閉じこもり、生活不活発、食生活の乱れ・偏り
それらによる「フレイル状態の悪化」

外出機会の低下

→上記に加えて、「バランスの良い食事ができていない」と答えた人が有意に多い

- 他に、具体的には、「人と会う機会が減ったので会話が減った」、「買い物に行けない」、「食材が手に入らない」等のコメントあり
- 外出自粛にともない、閉じこもり傾向まで外出頻度が低下した人では、食事でも簡単にすませる（おそらく欠食頻度もあがる）といった悪影響も

以前
(2020年2月頃)

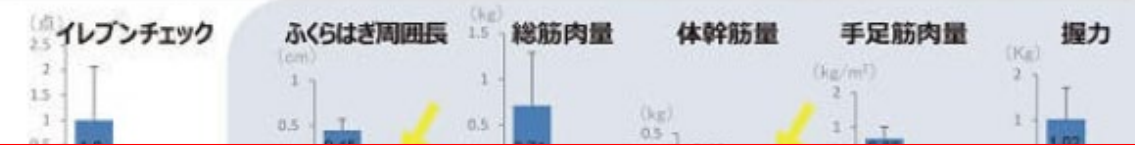
現在



フレイルチェック活動導入自治体からの新知見②

COVID-19による身体面・社会面への影響

フレイルチェックにおけるCOVID-19前後比較：①維持・増加群 と ②低下群



運動機能の低下

口腔機能・社会性の低下



「フレイル予防・対策：基礎研究から臨床、そして地域へ」
(公益財団法人 長寿科学振興財団発行) より引用

図2 フレイルチェック活動導入自治体からの新知見②-1

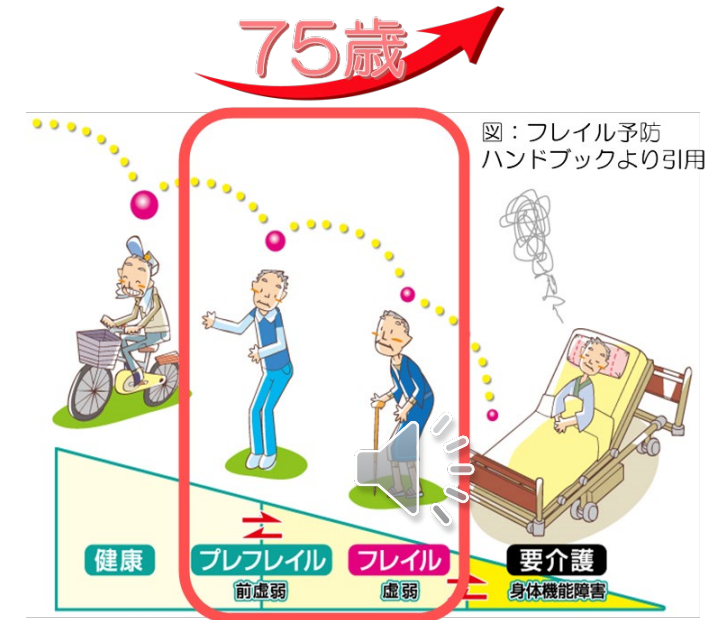
(東京女子高齢社会総合研究機構 孫輔輝、飯島勝天、論文準備中)

コロナフレイルの解消

コロナフレイルの解消が困難な人の傾向は、

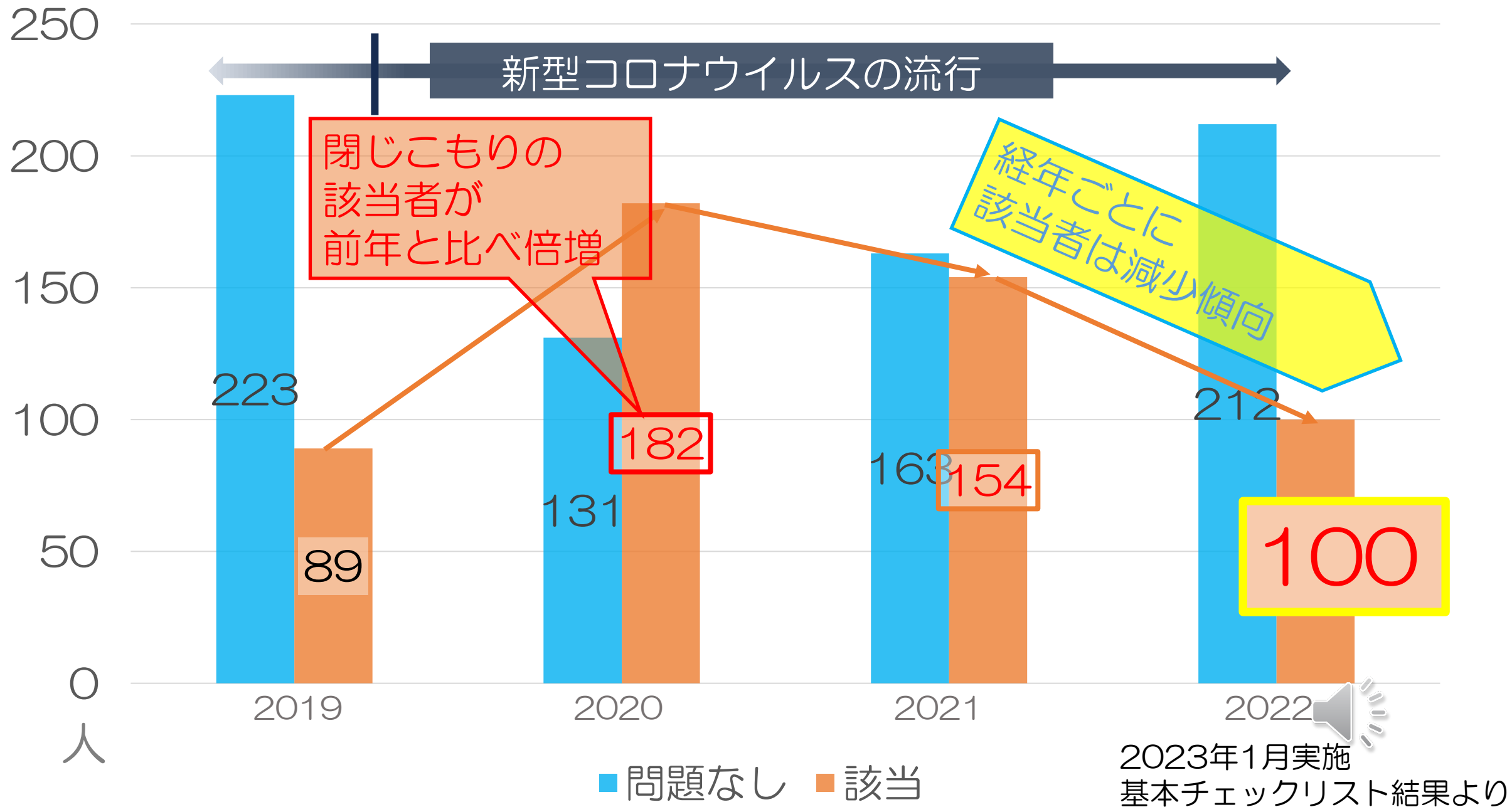
元々フレイル・プレフレイルの
後期高齢者（75歳以上）

社会参加の機会が少ない人



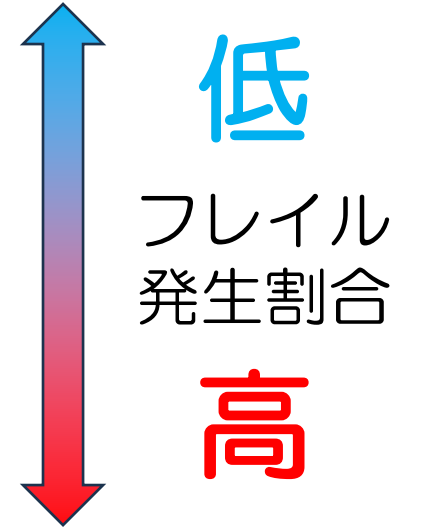
第2回有料老人ホーム実践研究発表会特別講演 筑波大学人間系：山田実
「コロナ禍で高齢者に及んだ影響と最新のフレイル対策」より参考

油壺エデンの園閉じこもり予防（社会参加）の該当者数の推移



他者との付き合いについて

- お互いの家を行き来する相手がいる
- 立ち話をする相手がいる
- あいさつ程度の付き合いしかない
- 付き合いはない



※立ち話とあいさつの違い
「二言目」が出る関係かどうか



仮説

職員から意図的に二言目の関わりを持つことで、
園内の社会的ネットワークが広がり、
入居者のコロナ（社会的）フレイルを解消できる



あいさつ+ONE（二言目）運動

あいさつ＋ONE（二言目）運動のねらい

広い館内で、多くの入居者と関われるよう
生活サービス課と居室サービス課で協働



続けることで、
言葉・会話の時間や量、
交流する人数が増やせる



油壺エデンの園

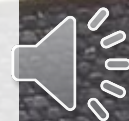
敷地面積：22,619m²

6,650坪

延床面積：36,207m²

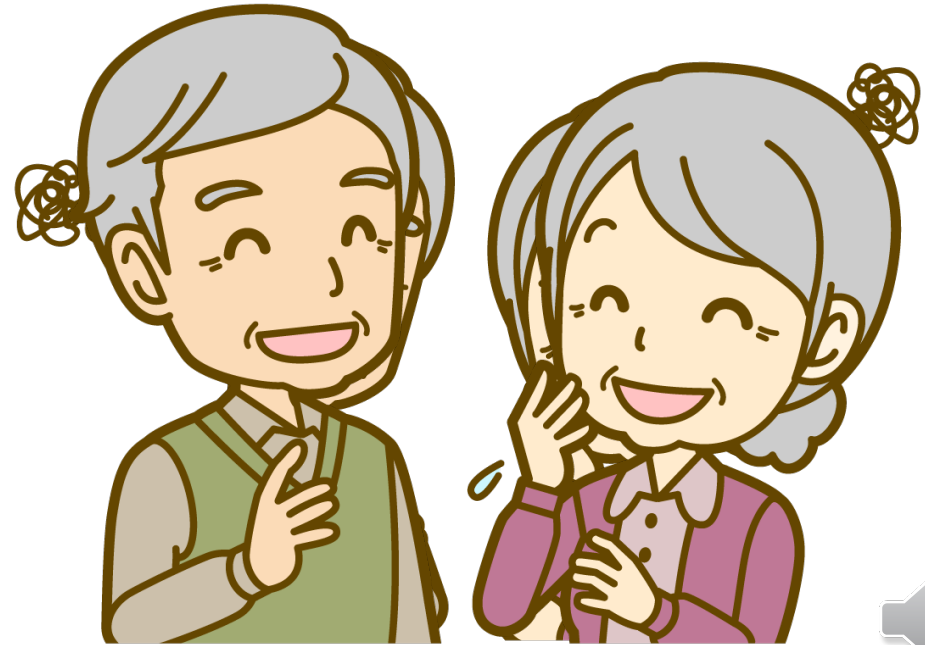
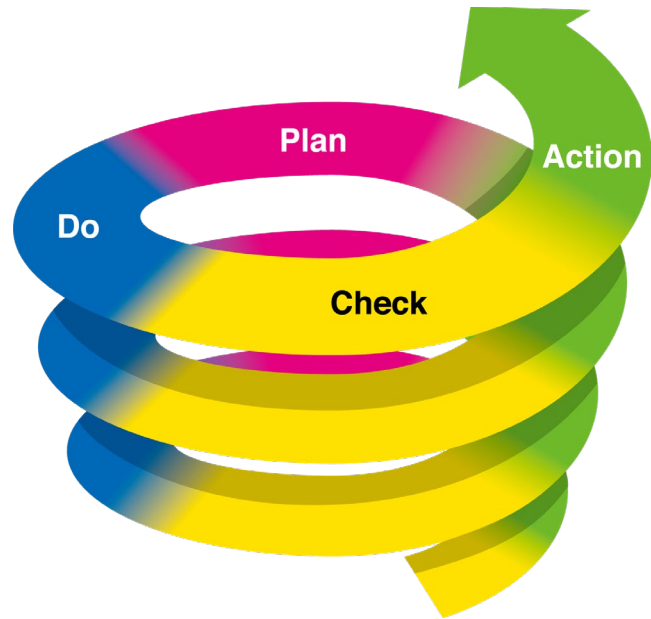
居室総数：424室（介護居室45室）

入居者数：494人 ※2024年4月時点



研究の目的

社会的フレイル解消に効果的な取り組みを検証、
実践と評価を継続し、油壺エデンの園入居者の
社会参加を促進する



研究の方法



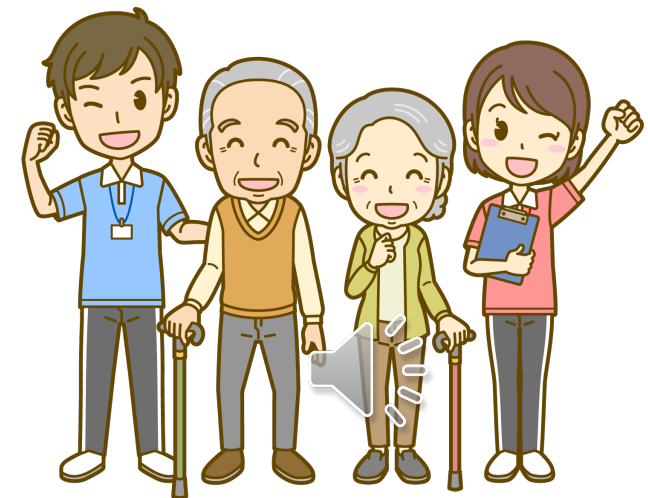
内容：社会的フレイル解消へのアプローチ
（入居者の交流や社会活動参加を増やす）

①社会的フレイルに関するアンケート

2023年9月：事前評価 ⇔ 2024年1月：事後評価

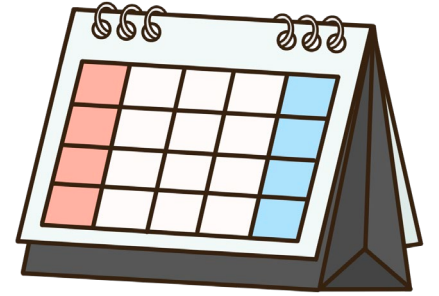
②あいさつ＋ONE（二言目）運動

③行事参加のお誘い



研究の方法

期間：2023年7月～2024年1月



評価方法：①社会的フレイルに関するアンケートを
取り組み前後に実施、結果の前後比較

②基本チェックリスト結果
2022年度：2023年度の比較

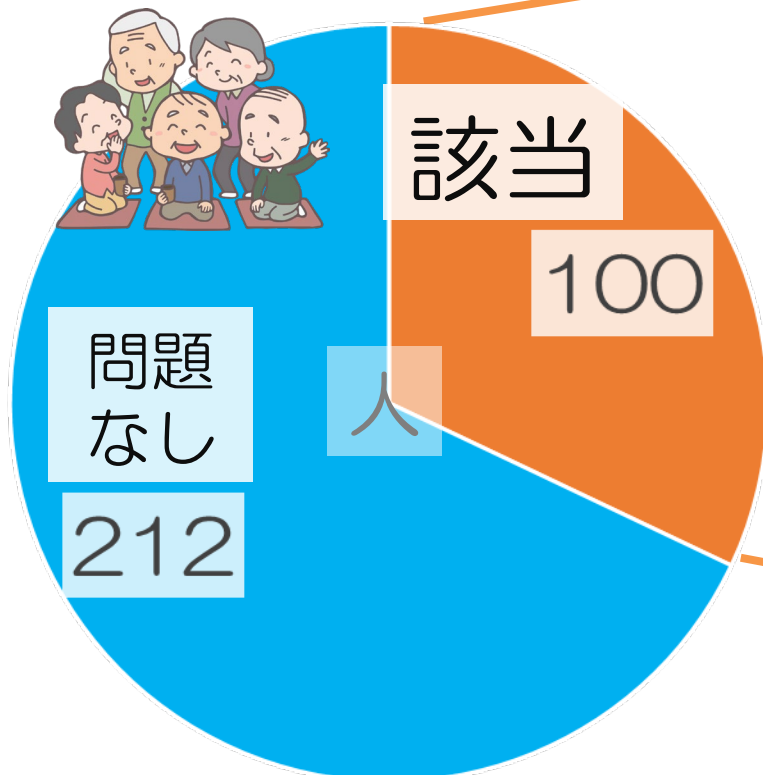


研究対象者

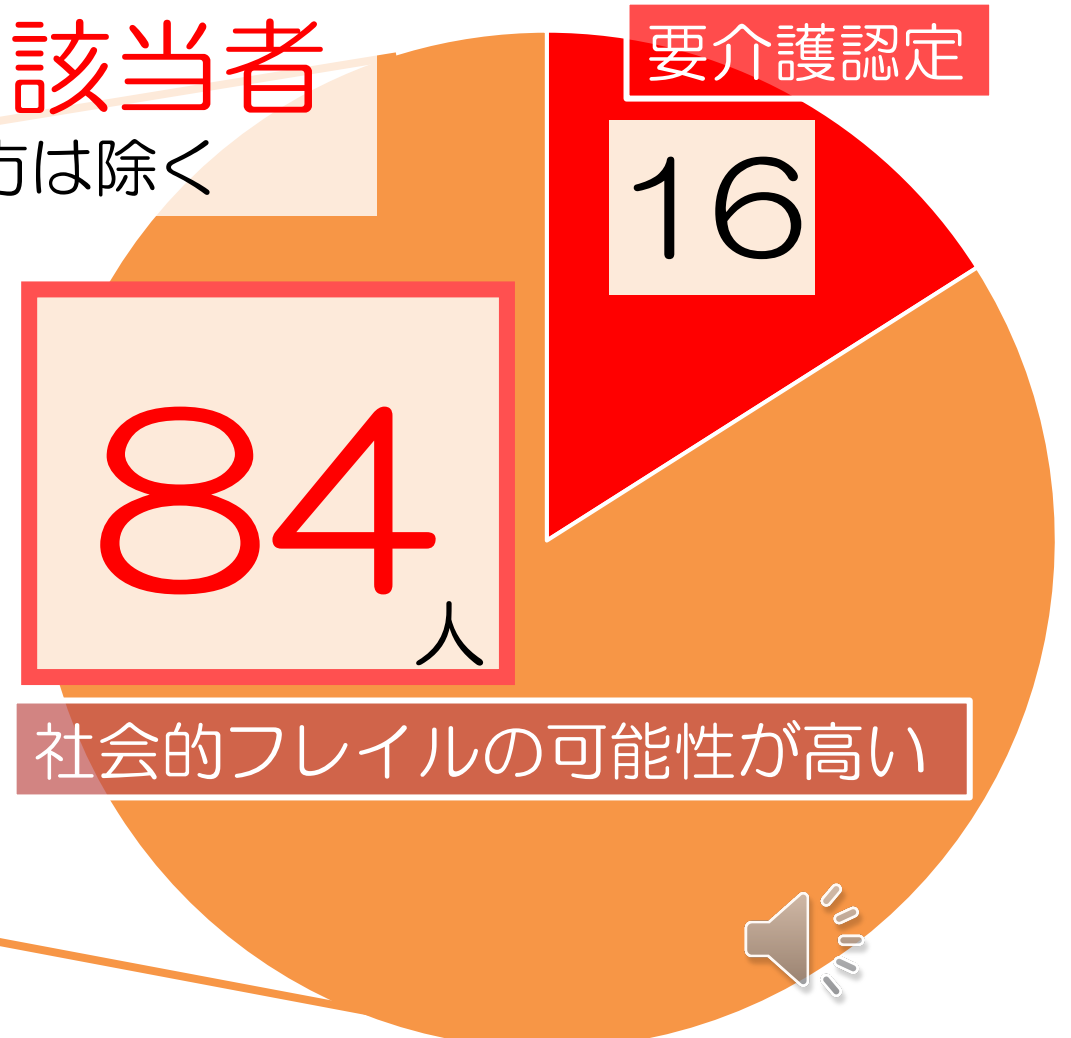
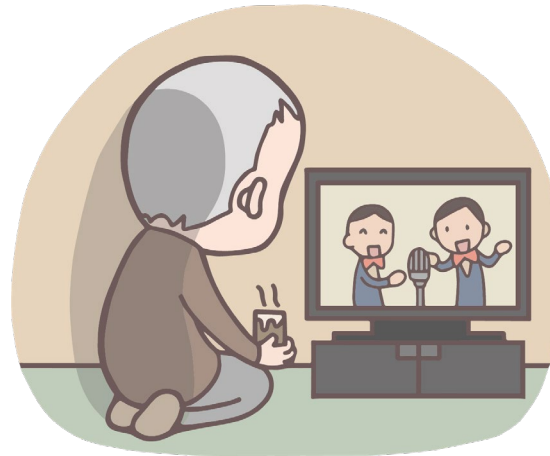
2023年1月の基本チェックリスト結果で

閉じこもり予防（社会参加）該当者

※取り組み開始時点で、要介護認定を取得した方は除く



2023年1月



2023年7月

倫理的配慮

本研究におけるデータの使用は
個人が特定されないよう配慮している

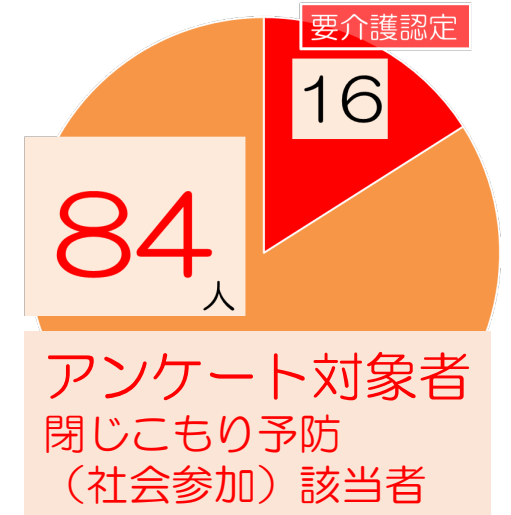


①社会的フレイルのアンケート調査

設問1. 近所の方（園内入居者、職員含む）と、
どの程度おつきあいしていますか？

- A：お互いに訪問しあう人がいる
- B：立ち話をする程度の人がある
- C：あいさつをする程度の人がある

回答	
いない	0点
1人	1点
2人	2点
3人～4人	3点
5人～8人	4点
9人以上	5点



設問2. 次の活動（園内・外含む）に参加していますか？

- A：園の行事
- B：園外の行事
- C：入居者全体会、町内会等
- D：サークル・自主クラブ
- E：ボランティア活動
- F：その他

回答
参加しない
時々参加する
ほぼ参加する
必ず参加する

設問1 「いない」
設問2 「参加しない」
に該当した場合は、
それぞれ理由の記載を
お願いした



社会的フレイルのアンケート事前評価結果

2023年9月

設問1. 近所の方（園内入居者、職員含む）と、
どの程度おつきあいしていますか？

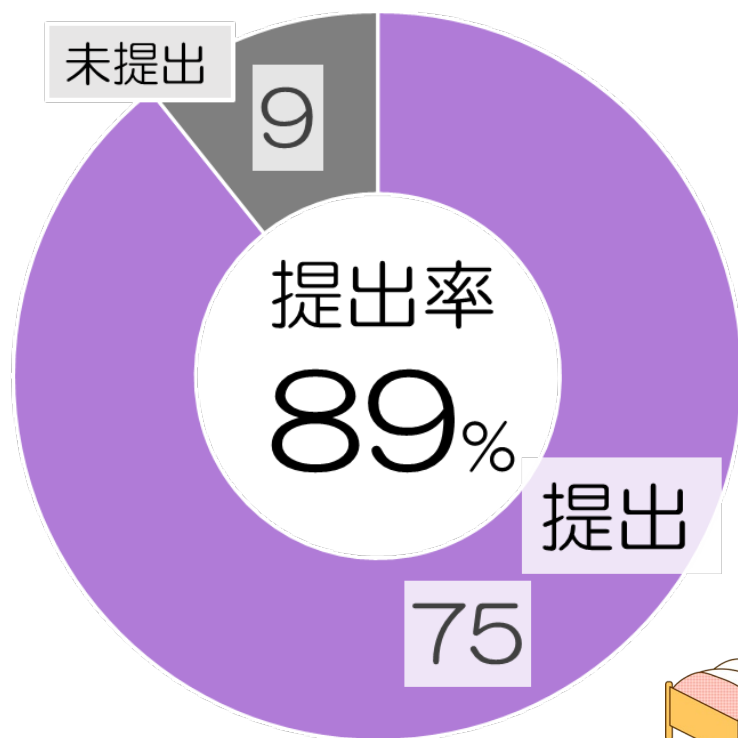
- A：お互いに訪問しあう人がいる
B：立ち話をする程度の人がある
C：あいさつをする程度の人がある

回答	
いない	0点
1人	1点
2人	2点
3人～4人	3点
5人～8人	4点
9人以上	5点

A・B・Cの合計点が

6点以下の場合

社会的フレイルのリスクあり

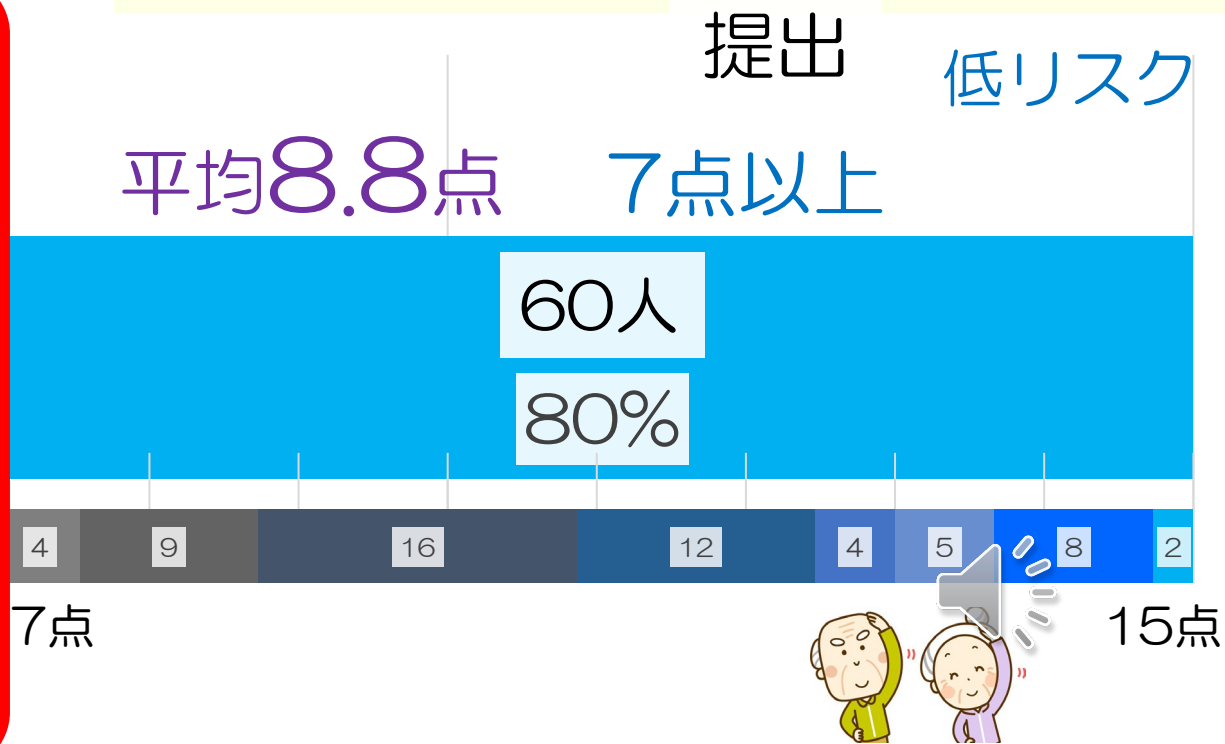


有リスク
6点以下

15人
20%

1 2 1 2 1 5 3

0点

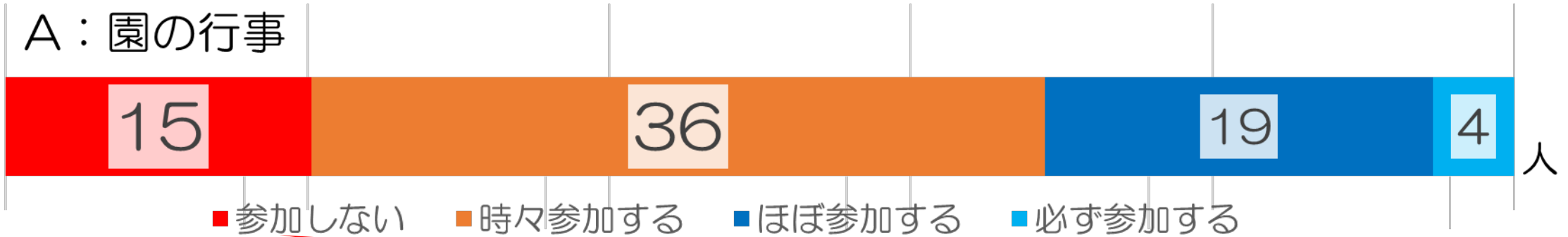


社会的フレイルのアンケート事前調査結果

2023年9月

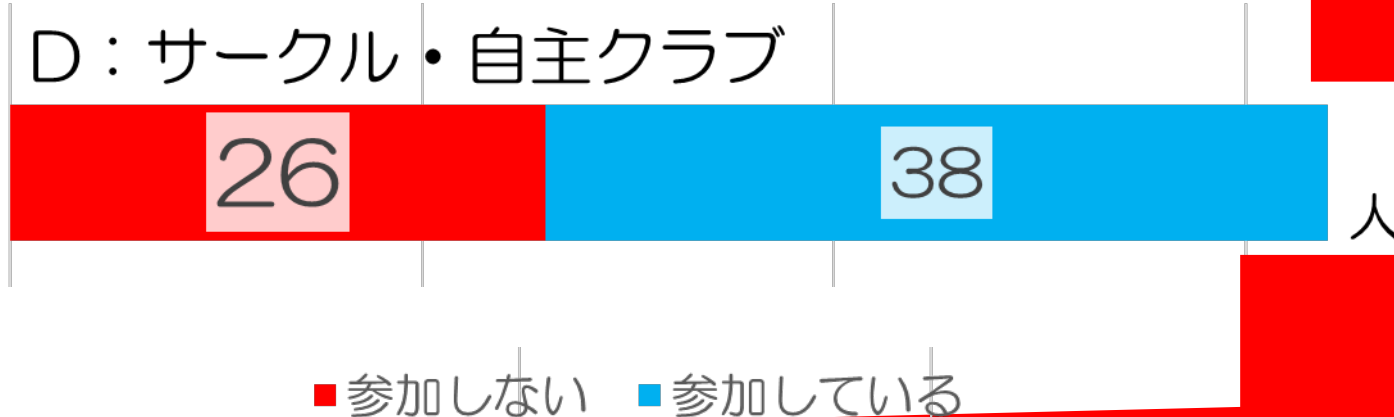
設問2. 次の活動（園内・外含む）に参加していますか？

A：園の行事



回答者の20%は
園行事に参加しない

D：サークル・自主クラブ



回答者の40%は
クラブ活動等に参加しない

あいさつ+ONE（二言目）運動

対象者：25人

事前評価で以下のどちらかに該当

☑おつきあいの程度6点以下（アンケート設問1）

☑行事や活動にいずれも参加しない（アンケート設問2）

生活サービス課・居室サービス課職員が

1日1回以上、対象者に共用部でお会いした際、

挨拶に加えもう一言、話しかける



あいさつ+ONE（二言目）運動

「二言目」は、まず、簡単なことから



おはようございます
今日はとても良い
お天気ですね

私も出勤する時に
見えました
登ったことは
ありますか？



富士山が良く
見えるわよ

定年になって
から登ったわね

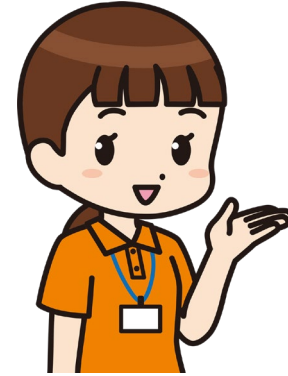
③行事参加のお誘い

対象者：25人

事前評価で以下、どちらかに該当

☑おつきあいの程度6点以下

☑行事や活動にいずれも参加しない



生活サービス課・居室サービス課職員が
行事開催の案内と参加を促す声かけをする

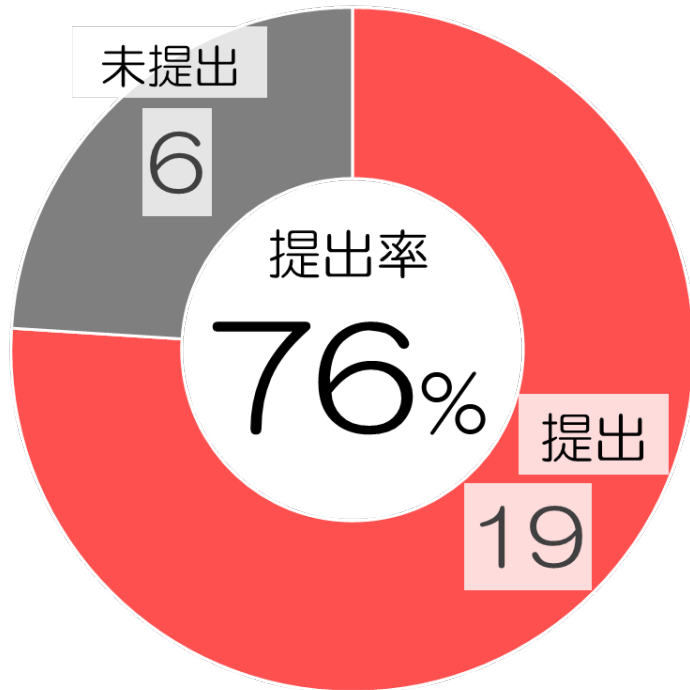


社会的フレイルのアンケート事後調査結果

あいさつ+ONE運動対象者25人

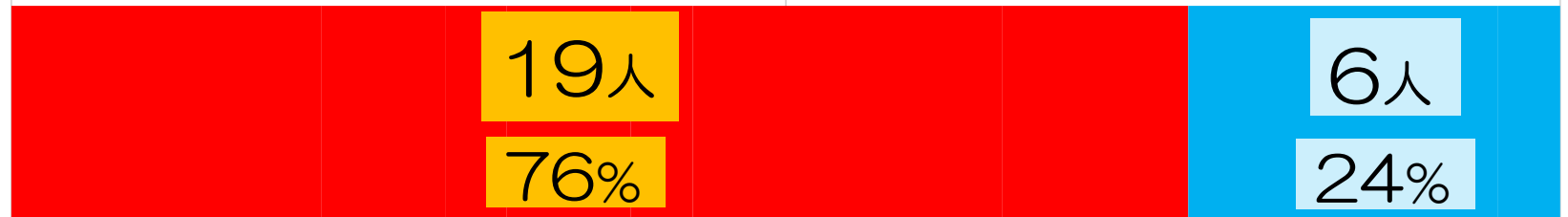
問. 1

近所の方（園内入居者、職員含む）と、どの程度おつきあいしていますか？



2023年9月結果

平均5.1点



有リスク
6点以下

対象者の**18%**に
改善が見られた

低リスク



2024年1月結果

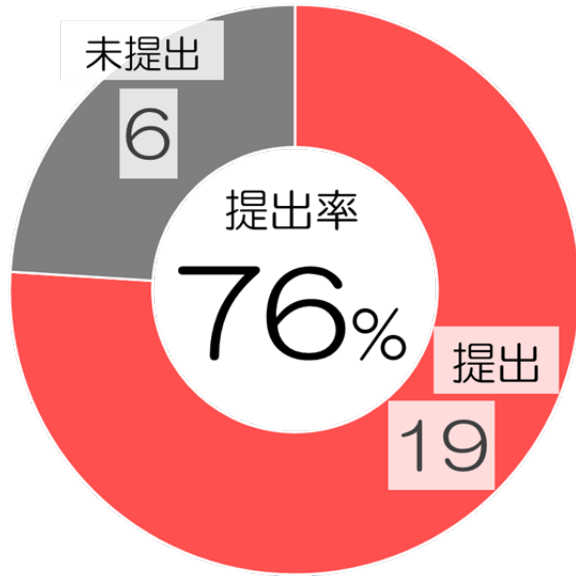
↑平均5.6点



社会的フレイルのアンケート事後調査結果

行事のお誘い対象者25人

問. 2
園の行事に参加
していますか？



2023年9月結果

■参加しない

■時々参加する



対象者の**28%**は
時々でも**参加する機会が増えた**



2024年1月結果

※ほぼ参加する・必ず参加するの回答は無し



取り組みに対する入居者の声

「声かけがきっかけで少しずつ外に出られるようになった。今は園の活動にも参加している。」

「職員さんが、気にかけてくれてうれしい。」

「声かけで、園の行事が分かり助かる。」



交流や参加を控える理由

- ・感染対策と思い、会話は控えている
- ・体調が悪く居室から出れない
- ・同室者がご逝去、または入院・介護が必要
- ・耳が聞こえないので、会話を控えている



取り組みに対する職員の声

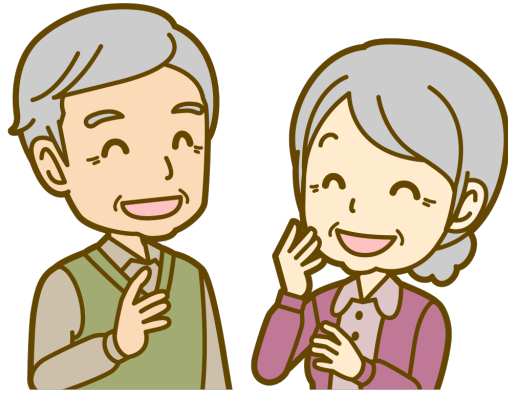
「これまで挨拶しても返事が無かった方が、
自分から声をかけてくれるようになった。」

「（対象者が）入居者同士で会話をしている
場面が増えている。」

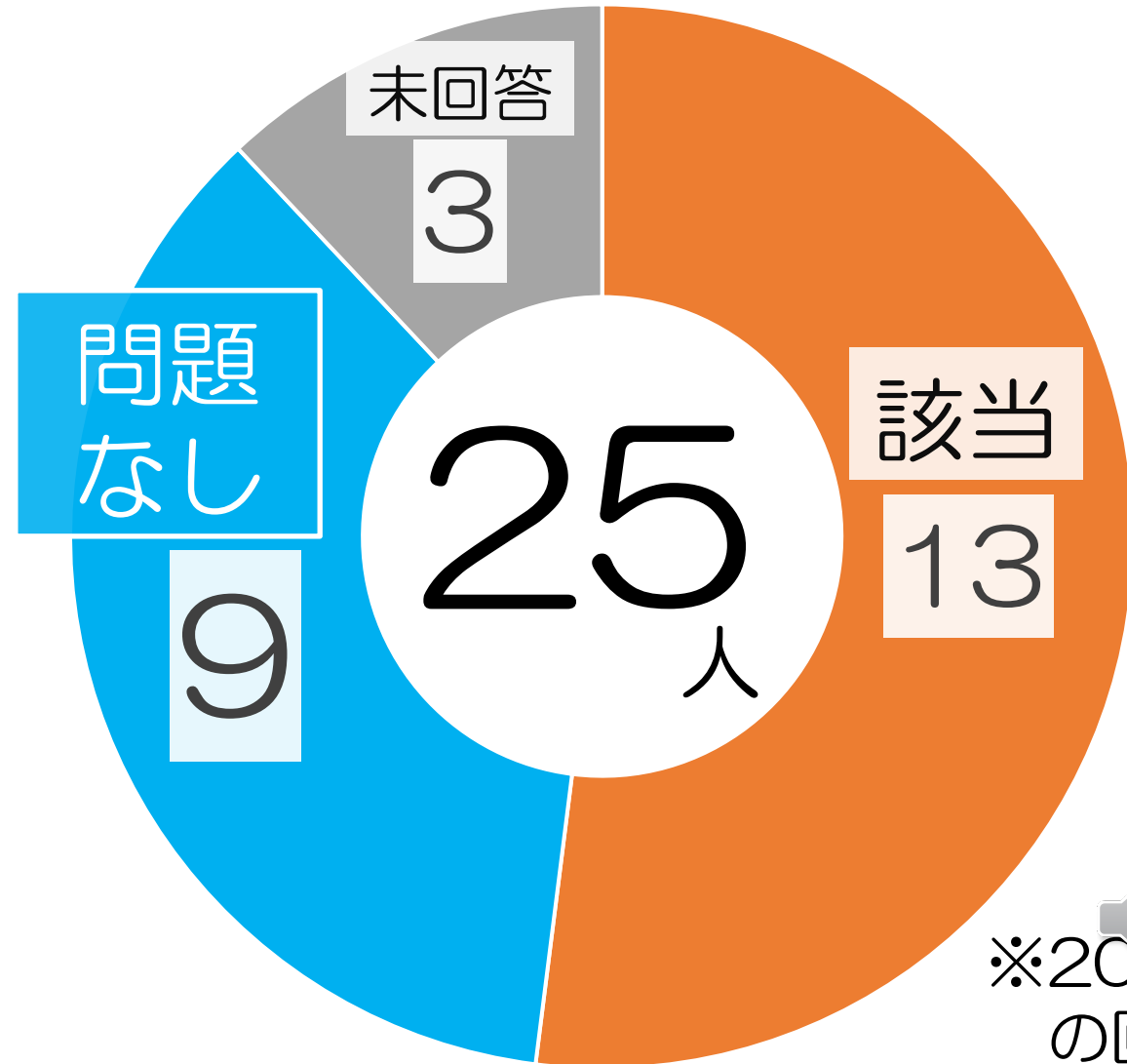
「共用部で過ごす時間が少なくて、声をかける
機会がない対象者もいた。」



対象者の2023年度基本チェックリスト 閉じこもり予防（社会参加）該当者数

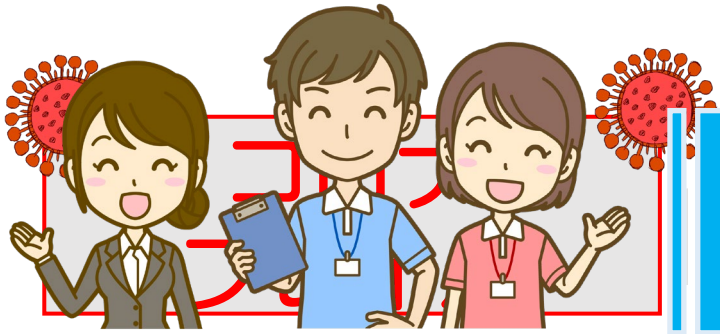


対象者の**約36%**に
改善が見られた



※2023年12月
の回答結果

考察



あいさつ+ONE運動



意図的なコミュニケーションにより、
入居者・職員の**エンパワメント**が高まり
社会参加が促進された



難聴、体調不良、身体機能低下や
家族の入院や介護等の生活状況に対しては、
根本原因への対処が必要



課題

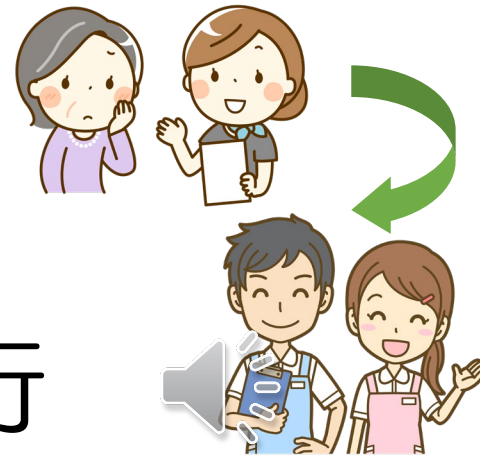
☆基本的感染対策と並行し
交流・社会参加を促すアプローチの継続



☆聴力に配慮した行事や活動の企画開催



☆体調不良、家族介護、喪失体験等、
ネガティブな出来事に対する個別相談



医療や介護等、必要なサービスへの移行



参考文献・資料

- 📖 「コロナ禍で高齢者に及んだ影響と最新のフレイル対策」
第2回有料老人ホーム実践研究発表会特別講演 筑波大学人間系：山田実
- 📖 「イチからわかる！フレイル・介護予防Q&A」 山田実 医歯薬出版株式会社
- 📖 「フレイルのみかた」 荒井秀典編 中外医学社
- 📖 「アンケート分析入門 Excelによる集計・評価・分析」 菅民郎 オーム社
- 📖 「日本語版 Lubben Social Network Scale 短縮版（LSNS-6）の作成と信頼性および妥当性の検討」 日本老年医学会雑誌 48巻2号（2011：3）
- 📖 「社会的フレイルの指標に関する文献レビューと内容的妥当性の検証」
日本老年医学会雑誌 51巻1号（2021：1）
- 📖 「フレイル予防・対策：基礎研究から臨床、そして地域へ」
公益財団法人・長寿科学振興財団
- 📖 「フレイル予防ハンドブック」 東京大学・高齢社会総合研究機関
- 📖 「新・介護福祉士養成講座 5 コミュニケーション技術」 中央法規

